

公立大学法人島根県立大学の平成 26 年度に係る業務の実績に関する評価結果（案）

1 評価にあたって

- 少子化に伴う大学全入時代の到来による大学間競争の激化や、国際社会や地域社会が求める人材の多様化・高度化など、大学を取り巻く環境は厳しさを増している。こうした中、県立大学は民間的発想を取り入れた効率的な経営を行いながら、地域や時代の要請に応え、特色ある、学生にとって魅力ある高等教育機関として発展していくことが求められている。
- 全国的に地方創生への取り組みが進められる中、地方公共団体が設置する公立大学にはこれまで以上に地域課題の解決に向けた役割が期待されている。そうした中、島根県においては、少子・高齢化、中山間地域振興、産業振興などの諸課題に対応するため、主体的に問題を発見・整理・解決し、変貌する経済・社会に柔軟に対応できる人材の養成が必要とされている。
- 島根県は、平成 19 年 4 月に地方独立行政法人法に基づく公立大学法人島根県立大学を設立した。そして、平成 19 年度から平成 24 年度までの第 1 期 6 年間に達成すべき目標（中期目標）を指示した上で、大学運営の自主性、自律性を高める大学改革を行った。平成 25 年度から第 2 期中期目標期間で達成すべき目標を指示し、各取組を促している。
- 第 2 期中期目標期間においては、業務運営の効率化はもちろんのこと、大学における教育研究活動を活性化させ、地域や時代の新たな要請に機動的に対応し、島根の特色を生かした魅力ある大学づくりを目指して引続き取組を進める必要がある。
- 島根県公立大学法人評価委員会は、この公立大学法人島根県立大学による業務実績を毎年度評価し、県民に対して大学運営の状況を明らかにすることを使命として、平成 18 年度に県の附属機関として設置された。
- 平成 25 年度の評価結果については、顕著な成果を伴った実績が数多く認められ、「中期目標の達成に向けて順調に進んでいる」と評価したところである。
- このたび、平成 26 年度の業務実績について、評価を行ったので、「全体評価」、「中期目標項目（「大学の教育研究等の質の向上」以外の項目）別評価」及び「「大学の教育研究等の質の向上」項目に対する評価」に区分して、その結果を示す。
- 当評価委員会では、今後とも県と連携し、県民の目線に立った評価を行う。公立大学法人島根県立大学が、この評価を積極的に活用し、中期目標の確実な達成を図るとともに、教育研究をより一層充実させていくことを期待する。

2 全体評価

- 平成 26 年度の法人運営・教育研究については、前年度の業務実績評価を踏まえた改善もみられ、中期目標の達成に向けて年度計画を順調に実施しているものと認められる。中期計画の進捗面で、特に大きな遅れや改善を要する事項はみられなかった。
- 当評価委員会が、特に高く評価する項目は次のとおりである。
 - ・学生募集を中心とした積極的な情報発信 (No87-4、全学)
 - ・「しまね地域共生センター」の設置などの地域との連携強化 (No.88、全学)
 - ・同窓会組織との連携強化 (No.88-4、松江キャンパス)
- なお、中期目標の項目中、「大学の教育研究等の質の向上」についての評価は、外形的、客観的な取組状況について特筆すべき点又は遅れている点を示すこととしており、中期目標で掲げる大学の基本的な 3 つの目標 (①高い知性と豊かな人間性を育み、社会に役立つ人材を輩出する大学、②地域に根ざし、地域に貢献する大学、③北東アジアをはじめとする国際的な研究教育を推進する大学) に照らして評価を行った。この結果、英語力向上の取り組み、インターンシップの参加促進など、質の高い教育研究への取組みがみられたほか、地域から求められているリカレント教育に的確に対応するとともに、国際交流センターを開設し全キャンパスの国際交流事業の支援体制を整備するなど、特筆すべき点がみられた。
- また、平成 25 年度の業務実績評価で今後の取組が期待されとした事項は、取組の進捗状況が遅れている事項が一部見受けられたものの、概ね改善が図られていると認められた。
- 以上のことから、第 2 期中期目標期間 2 年目である平成 26 年度の業務運営は、「中期目標の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

3 中期目標項目（「大学の教育研究等の質の向上」以外の項目）別評価

（1）年度計画の評定平均値による各項目別評定結果

○中期目標の項目中「大学の教育研究等の質の向上」を除く4項目については、年度計画項目別評価における各項目の評点の平均値により、中期目標の達成に向けた進捗状況を示すこととしている。平成26年度の業務実績について、法人自己評価を検証した結果は下表のとおりであった。

○中期目標項目の全てが、「A」と評定される平均値3.5以上であり、「中期目標の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

中期目標の大項目	評点平均値※	評 定	
①社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり	4.00	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。
②自主的、自律的な組織・運営体制の確立	4.00	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。
③評価制度の構築及び情報公開の推進	4.00	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。
④その他業務運営に関する重要事項	4.15	A	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。

評点平均値：年度計画各項目を5点満点で評定し、中期目標の大項目ごとに平均値を算出したもの。

評定：評点平均値に応じて、AA、A、B、C、Dの5段階で評価。

○次に、上記4項目の評価を行った際、年度計画の項目中において「顕著な成果がみられた事項」が見られたので、以下の（2）、のとおり示す。

(2) 顕著な成果がみられた事項

	評価対象とする事項	評価の根拠（数値データ等）	評 価
その他業務運営に関する重要事項	学生募集を中心とした積極的な情報発信(No.87-4、戦略的な広報の実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ CM、新聞雑誌広告、駅看板の設置に新たに取り組むなど、積極的な情報発信を行った。 ・一般入試前期の志願倍率において、出雲キャンパス 9.3 倍（前年度 6.2 倍）、浜田キャンパス 8.2 倍（前年 6.9 倍）となり、全国の国公立大学でも上位となる高い志願倍率を達成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高い志願倍率の成果に結びついていることを評価する。 ・今後も効果的な情報発信により、多くの受験生確保に取り組まれない。
	大学を支援する組織との意見交換や交流を通じた地域との連携強化(No.88、学外支援組織との連携強化)	<ul style="list-style-type: none"> ・「しまね地域共生センター」を新たに設置し、松江キャンパスにおける地域貢献窓口の一元化を実現した。 ・地（知）の拠点整備事業を進めるための運営員会などの開催回数を増やすことにより、関係機関との連携をこれまで以上に強化し、新たに 16 件の研究事業実施が決まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全てのキャンパスに地域連携を進めるための組織が設置されたことを評価する。 ・これにより今後大学と地域との連携が進むことを期待する。
	同窓会事務・事業の強化(No.88-4、大学支援組織との連携強化)	<ul style="list-style-type: none"> ・松江キャンパスにおいて、新たに同窓会拠点を設置し、学生と同窓会との交流を促進した。 ・同窓会による卒業生・在学生・教職員交流市内ツアーを実施するなど、連携を一層深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会は、大学の有力な後援母体であるとともに、大学と社会をつなぐ窓口であり、連携の強化は重要である。 ・今回の取り組みにより在学生と卒業生の交流機会が拡大されたことを評価する。

4 「大学の教育研究等の質の向上」項目に対する評価

「大学の基本的な目標」からみた教育・研究評価の視点	特筆すべき点（注目される点）	遅れている点（課題がある点）
<p>①高い知性と豊かな人間性を育み、社会に役立つ人材を輩出する大学</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い教育の提供や学生に対するきめ細やかな支援がなされているか。 ・社会に役立つ人材の育成につながっているか。 	<p>◇ TOEFL-ITP500 点以上を2名、TOEIC730 点以上を1名、卒業研究を英語で執筆した学生を8名輩出した。(合計11名、目標10名) (浜田キャンパス)</p> <p>◇ インターンシップにおいて、昨年度の6倍以上となる67名の参加があった。(浜田キャンパス)</p> <p>◇ メディアセンターにおいて、リクエスト一覧と入荷状況をリアルタイムで表示するなどの取り組みを行った結果、図書のリクエスト総数が対前年度比25%増加した。(浜田キャンパス)</p> <p>◇ 学生の独創的・魅力的なプロジェクトに対し費用を補助し、学生主体の産学協同開発による怪談スイーツ「ほういちの耳まんぢう」の商品化を実現した。(松江キャンパス) (No.41-1)</p>	<p>◇ 7つある全学センターの活性化を図るため、少なくとも年1回は全学センターに所属する教員が情報交換や交流を促進するための機会を設ける計画であったが、FDセンター及び保健管理センターでは、実施することができなかった。(全学) (No.30-2)</p>
<p>②地域に根ざし、地域に貢献する大学</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に貢献し、創造性豊かで実践力のある人材育成が行われているか。 ・地域に知の還元が行われ、地域社会の活性化と発展に寄与する取組がみられるか。 	<p>◇ 大学独自の制度である「しまね地域マイスター」認定制度の構築や、島根の地域課題を学ぶ「しまね地域共生学入門」の開講準備を進めるなど、地域志向型のカリキュラム構築に努めた。(全学) (No.46)</p> <p>◇ 「しまね地域共生センター」を開設し、地域志向教育・研究機能の向上や地域貢献窓口の一元化を図るとともに、島根県と連携した「しまね和牛の食品開発」、「島根米つや姫の食品開発」や民間企業と連携した「西条柿の食品開発」を実施するなど、地域との連携を推進した。(松江キャンパス) (No.48-3)</p>	

	<p>◇助産師等を対象にした超音波診断技術や新生児蘇生法のシミュレーション研修を新たに設けるなど、8つの公開講座を開講し、延べ134名の受講を得た。(出雲キャンパス)</p> <p>◇教員の地域貢献活動数は、目標の400件に対し、前年度比115件の増となる747件の実績があり、積極的な地域貢献を行った。(全キャンパス)</p>	
<p>③北東アジアをはじめとする国際的な教育研究を推進する大学</p> <p>・北東アジアを中心とした総合的な教育研究が推進されているか。</p> <p>・外国の大学との学術ネットワークの形成や留学生の派遣交流が積極的に行われているか。</p>	<p>◇帰国した留学生のネットワークにより、タタールスタン科学アカデミー研究所と学術交流協定を締結した。(浜田キャンパス) (No.50-8)</p> <p>◇初めて台湾の大学(国立台中科技大学)と交流協定を締結し、幅広い交流先の確保に取り組んだ。</p> <p>◇交流協定を締結している中国東北師範大学東亜文明中心や蔚山大学校と共同シンポジウムを開催するなど、研究交流の発展に努めた。(浜田キャンパス) (No.60)</p> <p>◇中国の交流先からは長年受入のみを行っていたが、吉林大学に対し、1名の学生を新たに派遣した。(浜田キャンパス) (No.62-3)</p> <p>◇「国際交流センター」を開設し、全キャンパスの国際交流事業の支援体制を整えた。(全学) (No.65)</p>	<p>◇『北東アジア創成シリーズ』第3、4巻を刊行し第5巻の執筆に着手するという計画であったが、いずれの巻も計画達成ができなかった。(No.47-2)</p>

公立大学法人島根県立大学平成26年度業務実績評価 評点算定表

中期目標(大項目)		平成26年度計画評点			中期目標項目別 評価結果
中期目標(中項目)	評点合計 (A)	計画項目数 (B)	評点平均 (A)/(B)		
中期目標(小項目)					
I	社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり	8	2	4.00	A
II	大学の教育研究等の質の向上	5段階評価を行わない項目			
III	自主的、自律的な組織・運営体制の確立	80	20	4.00	A
	1 業務運営の改善及び効率化	40	10	4.00	
	(1) 運営、組織体制の改善による効率的、合理的な経営	12	3	4.00	
	(2) 人材管理の適正化	28	7	4.00	
	2 財務内容の改善による経営基盤の強化	40	10	4.00	
	(1) 自己財源の充実	32	8	4.00	
	(2) 経費の抑制	4	1	4.00	
	(3) 監査体制の充実	4	1	4.00	
IV	評価制度の充実及び情報公開の推進	28	7	4.00	A
	1 評価制度の充実	20	5	4.00	
	(1) 組織を対象とした評価制度	12	3	4.00	
	(2) 個人を対象とした評価制度	8	2	4.00	
	2 情報公開の推進	8	2	4.00	
V	その他業務運営に関する重要事項	83	20	4.15	A
	1 広報広聴活動の積極的な展開等	47	11	4.27	
	(1) 戦略的な広報の実施	21	5	4.20	
	(2) 大学支援組織との連携強化	22	5	4.40	
	(3) 広聴活動の実施	4	1	4.00	
	2 施設設備の維持、整備等の適切な実施	4	1	4.00	
	3 安全管理対策の推進	16	4	4.00	
	4 危機管理体制の確保	4	1	4.00	
	5 人権の尊重	8	2	4.00	
	6 環境マネジメントの構築・推進	4	1	4.00	

(※評点平均値が4.3以上→AA、3.5以上4.2以下→A、2.7以上3.4以下→B、1.9以上2.6以下→C、1.8以下→D)